

若林信夫教授追悼記念号に寄せて

学長 秋 山 義 昭

この度、商学討究第53巻第4号を発刊するにあたり、本年3月18日にご逝去された若林信夫教授の遺徳を偲び、本号を「若林信夫教授追悼記念号」とすることいたしました。

若林先生は、昭和17年、長野県にお生まれになり、地元の高校を卒業された後本学に入学され、昭和41年、本学商学部管理科学科を卒業されました。卒業後は研究者の道を志し、北海道大学大学院経済学研究科修士課程、同博士課程に進学され、昭和45年に本学に講師として赴任されました。昭和47年に助教授、昭和62年に教授に昇任されましたが、この間に、昭和49年には文部省情報処理関係研究員として東京大学において研究され、さらに昭和55年から56年にかけて、文部省在外研究員として、アメリカ、スタンフォード大学に研究滞在いたしました。

また、平成元年から平成4年まで2期4年にわたり、本学の情報処理センター長の要職にあられ、一方、日本オペレーションズ・リサーチ学会北海道支部長、平成8年度日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会実行委員長を勤められる等、学会においても中心的な役割を果たしておられました。

先生のご専門は管理科学、情報科学で、特に、経済学・経営科学の基礎理論的な研究、その応用的な研究、経営科学への計算機技術の応用が主たる研究テーマでありました。近年は、電子商取引の社会情報学の分野にも関心を持たれていたようでした。「経済学Ⅰ価格理論」（共著、有斐閣、昭和51年）、「社会科学

への招待「経済理論編」(共著, 日本評論社, 昭和52年), 「現代経済学講義」(共著, 中央経済社, 昭和61年), J・マーチン「データベース管理」(共訳, 日本コンピュータ協会, 昭和57年)等, 数々の優れた研究成果を残されています。

以上のような研究分野, 学会における先生の立派なご活躍は, 「オペレーションズ・リサーチの進歩に関し, 顕著な貢献をなした」ものと認められ, 平成9年には, 学会よりフェローの称号が贈呈されました。

先生は, テニスをこよなく愛するスポーツマンでもありました。仕事の合間をみて, よくコートに顔を出されては熱心に練習をされ, また, 対外戦では, 独特のスピンのかかった鋭いロブと学生時代に軟庭で鍛えた素早いポーチで, 再三相手チームを苦しめておりました。先生と私とは同年配であり, 赴任の時期もほとんど同じでしたから, 早くから同僚として親しくお付き合いいただいたばかりでなく, テニスにおいても, ある時は良きライバルとして, ある時はダブルスの良きパートナーとして, 数多くの思い出を残していただきました。

先生が体調の異変に気付かれたのは, 平成12年秋, やはりテニスを楽しまれた後とのことでした。責任感の人一倍強い先生は, 闘病生活の間も研究, 教育の手を休まれることなく, 病状が悪化した平成14年春には, あらん限りの力を振り絞って試験の採点にあたっておられました。

平成14年3月18日, 学位記授与式が終わるのを見届けるかのように, 先生は息を引き取られました。まだまだお若く, 研究意欲も旺盛で, 健康そのものに見えただけに, 先生とのあまりにも早いお別れは, 私どもに大きな衝撃を与えました。先生自身も, さぞかし無念であったに違いありません。

ここに若林信夫教授追悼記念号を発刊し, 我々一同心から哀悼の意を表したいと思います。